

# 信を通

わす

5

## CSR経営の原点

富山の売薬精神と近江商人道徳に学ぶ



滋賀銀行頭取

高田 紘一氏

(たかた・こういち)

著作権の関係上、表示できません。

インテックホールディングス会長の中尾哲雄さんは男も惚れる粋な経営者だ。今から7年前、滋賀銀行が「コルセンター」を構築し、DBM（データベース・マーケティング）を本格的に展開するに当たり、ご支援を賜って以来、公私にわたる親交を深めていただいている。「コルセンター」の竣工セレモニーに富山からお越しくださった初対面の夜に大津で拉致して意気投合した。IT時代をつとに見越して社名を決められた先見の明はもとより、ふるさと富山をこよなく愛する「考動力」、飲んだり、歌ったり、打つては「ゴルフと囲碁」、人間味溢れる男気に魅きつけられてしまふ。まさに「知情合一」を地で行くボスだ。

5年前にかのグリーンズパン氏（前FRB議長）を嘆かせた「感染する貪欲」(Infectious greed)が、今や日本に蔓延したかの如き、企業不祥事の続発には、あきれるばかりだ。

「そもそも企業は何のために存在するのか」という極めて素朴なテーマが問われている。日本の資本主義の父といわれた渋沢栄一氏は、「仁義と道徳が富の源泉でなければならぬ」と実践された「同氏著、論語と算盤」)。それよりもっと昔に、富山の売薬人と近江商人が、いずれも商売の「永続的な」(サステナブル)発展を志向するために築き上げた経営哲学に学ばなければならない。

富山の売薬人が実践した「先用後利、見利思義」の精神は、中尾さんの信条でもあると伺っている。商圏を全国に拡げ、今風のグローバル営業を展開した近江商人の「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よし)の哲学は、「CSR」(企業の社会的責任)の真髄を突いている。

滋賀銀行には、「自分にきびしく、人には親切、社会につくす」という「行是」(社訓)がある。「三方よし」の精神そのものであり、不滅の哲学と心している。昨年当行は、「CSR憲章」を制定し、「地域社会」、「役員員」、「地球環境」というトリプル・ボトムラインとの「共存共栄」を追求していく決意を新たにしたりわけ地球温暖化問題が待ったなしの局面にあるなかで、経済発展と環境保全との両立というテーマに、金融面からもより積極的に貢献していきたいと考えている。